

消防車のサイレンが耳から離れない

今、夜中の2時45分です。先ほど2時前に、私の住む平川の団地内でぼや騒ぎ(?)があり、消防自動車が出動して来ました。その少し前に、平川消防団の集合を知らせる大きなサイレンが鳴ったので目が覚めましたが、まさか自分の住む団地内だとは夢にも思いませんでした。数分後に消防車のサイレンが近くで止まり、ドアが開く音が聞こえ、初めて近くで起きていることが分かり飛び出しました。結局、大したことはなかったようでしたが、その後、眠れなくなった(香月先生もでしょうか?)ので、こうして通信を打っています。

今、心から情けなく思っていることは、危機に対する自分自身の認識の甘さです。団地では、3年前に私が防災担当地区役員をしたときに、自主防災組織を立ち上げました。災害発生時には、団地内でまず自主対応することになっています。

しかし、今回、私は、団地内での火事だと分かったのに、パジャマ姿、サンダル履きで出て行きました。目の前で消防車が消火栓にホースをつなげているのに、火事現場(?)の数十メートル手前で近所の人たちと一緒にそれ以上近づこうともせずに、ただ見守っているだけでした。炎が見えず、はっきりした現場が分からなかったこともあります。自主的な避難誘導はできませんでした。もし、大きな火災だったら、近所の住民として何もできなかったことになりそうです。

先ほどの自分の行動をとっても反省していません。近所だと分かった時点で、「消火活動、又は避難援助活動をする」という意識で行動を始めなければ何の意味はありません。大切なのは、いざという時の初動の「心構え」です。まずはこう動く、という意識を強く持つ

ておくことが大切だと思いました。私も今後は、ドキドキしても、現場に駆けつけ「出来ること」をしたいと思います。

本校でも、いつ何が起きるか分かりません。私は、7年前は県教委で、学校安全を担当していました。その3年間では、交通死亡事故、修学旅行の旅館での火災死亡事故、防府の甚大な土砂災害等、厳しい危機状況を経験し、さらに、校長としての最初の学校では、初年度に児童の妹が殺されるという危機対応がありました。

一番可能性の高いのは重大交通事故です。本校でも、対応マニュアルは出されていますが、もう少し細かい事前準備が必要です。早急に、個人名入りの今年のマニュアルを作成し、初動対応研修をしたいと思います。

昨日の地区別下校でもよく分かりましたが、本校児童の日常の生活態度は大変落ち着いていますし、春休み中のエピペン研修のように先生方の危機に対する認識度も大変高いので、緊急時も適切な対応ができると安心しています。また、昨日PTAから、緊急メール配信をできる限り100%にするための方策について相談がありました。本校の緊急メールの充実度は群を抜いていると思います。しかも、それをPTAがされていることに心から感動しています。危機発生時、緊急メール配信は情報発信の命綱です。本校は、PTA組織の充実度も抜群です。

今後とも、さらに、具体的な事前研修・訓練を積み、危機対応力を高めていきましょう。明後日には最初の避難訓練があります。

ここまで打って、少し眠くなってきました。先ほどの火事騒動が大したことがないことを祈りながら、そろそろベッドに戻ろうと思います。